

# 医学部附属病院 不整脈センター

増加する不整脈を高度先進技術で治療

□date : 3.2014  
 □check :  
 □name :

Catheterization Laboratory



カテーテル室●3Dシステムで心臓をマッピングしながらカテーテルを操作する。治療に要する時間は、発作性心房細動の場合は2～3時間、持続性心房細動の場合は4時間程度。



Director Hirao



平尾見三センター長●「心房細動の増加は世界的な問題で、欧米の大学病院では不整脈センター新設が相次いでいます。日本ではまだ少ないですが、本学では専門医師、看護師、臨床工学技士による集中したチーム体制に加え、最新機器を駆使して、より多くの患者さんを治療する体制を整えています」

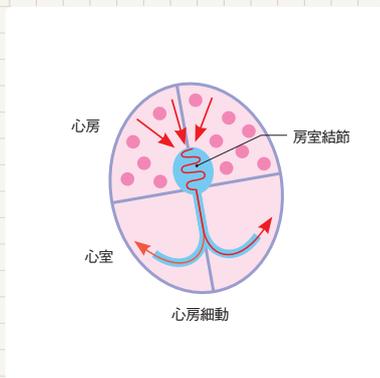
2011年に医学部附属病院に新設された不整脈センター。薬物療法では治療困難な不整脈を対象に、カテーテル治療や植え込み型デバイス治療などを行う。正常な心臓は、心臓内の電気的興奮により規則正しく拍動するが、不整脈では興奮回数が異常に少ないか、異常に多い状態になる。近年増加傾向にある心房細動は、加齢や肥満が要因となり、心房内に不規則な興奮が多発して頻脈状態になる。そのため動悸やめまいが起り、進行すれば脳梗塞や心不全にもつながってしまう。

従来、唯一の治療法は薬物療法だったが、1980年代にカテーテルで心臓内の異常部位を焼灼するカテーテルアブレーションという治療法が開発され、根治することが可能になった。東京医科歯科大学では、1993年から循環器内科でカテーテルアブレーションを導入しており、近年では毎年200件以上実施している。平尾見三センター長は語る。

「不整脈センターは設立されたばかりですが、当院では20年以上にわたる実績があり、多くの患者さんを治療してきました。例えば、テニスをしている途中で心房細動で失神に陥った患者さんはアブレーション後すっかり元気になり、イタリアで開かれたシニアのテニス大会で優勝したそうです。術後の生活や人生が変わったという患者さんをたくさん見てきました」

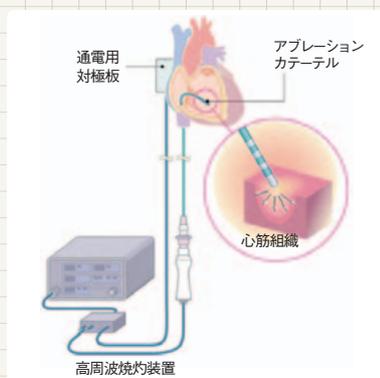
また同センターでは、突然死のリスクの高い心室細動に対して植込型除細動器(ICD)というデバイス治療を行うほか、循環器内科、小児科、心臓血管外科と連携してあらゆる不整脈に対応。関連病院との協働で教育や研究にも力を入れており、今後も国内トップレベルの治療の維持・発展を目指している。

## ■心房細動



心房内の不規則で頻回な興奮が房室結節に伝わり、心室興奮が不規則になる不整脈。心房内の血流が停滞することで血栓ができ、脳梗塞などを引き起こす恐れがある。

## ■カテーテル焼灼術



局所麻酔下で直径2mmのカテーテルを心臓に入れ、異常な部分に高周波電流を流して焼灼する。現在世界で100万件のカテーテルアブレーションが行われており、うち40%が心房細動だが、2021年には200万件(心房細動は60%)にも達すると予測されている。

### 診療科DATA

診療科長：平尾見三

診療スタッフ：専任2名、心臓血管外科(兼任)1名、小児科(兼任)1名、循環器内科(兼任)6名、生命機能情報解析学(兼任)1名

対象となる疾患：頻脈性不整脈(上室頻拍、心房細動/心房粗動、心室頻拍/心室期外収縮、心室細動)、徐脈性不整脈(洞不全症候群、房室ブロック)

主な治療：カテーテルアブレーション(心筋焼灼術)、植込型除細動器(ICD)、ペースメーカー、心臓再同期療法(CRT)、薬物療法

診療実績：(2013年1月～12月)：カテーテルアブレーション277例、デバイス植え込み97例、不整脈入院患者数345例